|  |
| --- |
| 第７章　大阪の国際化 |
| 近畿圏の貿易は、地域別では輸出入ともにアジアの割合が高く、北米の割合が低いこと、品目別では、輸出は輸送用機器の割合が低く、電気機器の割合が高いことが特徴です。第７章では、大阪の国際化の現状を把握するために、貿易や外国企業数、国際会議の開催件数等について取り上げます。 |

教えて！Q＆A





資料：大阪税関「貿易統計」（グラフ、表とも）

|  |
| --- |
| 近畿圏の輸出入は、増えているの？減っているの？増減しているのは、何が原因なの？ |

 2022年の近畿圏の輸出額は21兆6,265億円、輸入額は20兆8,087億円で、それぞれ全国の22.0％、17.6％を占めています（7－1参照）。主な輸出品としては、半導体等電子部品やコンデンサー、電気回路等の電子、電気部品、機器、建設、鉱山用の機械、鉄鋼、非鉄金属といった素材などがあげられます。

輸出額の推移をみると、中国への輸出増加などにより1990年代後半から増加が顕著になりました。リーマンショックが発生した2008年、翌2009年と減少したものの、2010年以降は回復傾向にあります。足下では、米中貿易摩擦や新型コロナによって一時的に減少しましたが、2022年は増加しました。ただ、全国よりも増加率が小さく、輸出額の全国シェアは前年に比べ、わずかに低下しました（7－1参照）。

近畿圏の輸出額が概ね輸入額を上回っており、貿易収支は黒字基調です。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ７－１特徴 | 全国・近畿圏の輸出入通関額の推移 |

* 近畿圏の輸出額は2022年に21兆6,265億円で２年連続の増加でした。
* 近畿の輸出額の全国シェアは2022年に22.0％で、0.4ポイント低下しました。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－２ | 全国・主要税関の輸出入相手地域別通関額【2022年】 |

特徴

* 近畿圏の輸出入の地域別構成比を国内他地域と比較すると、輸出入ともにアジアの割合が高く、北米の割合が低いことが特徴です。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－３ | 全国・近畿圏の輸出入品目別の通関額【2022年】 |

特徴

* 近畿圏の輸出は、全国と比べて「輸送用機器」の割合が低く、「電気機器」等の割合が高いのが特徴です。
* 近畿圏の輸入は、全国と比べて「化学製品」の割合が高く、「輸送用機器」等の割合が低いのが特徴です。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－４ | 近畿圏の輸出入の主要相手地域別品目別の通関額【2022年】 |

特徴

* 近畿圏の輸出は、他の地域向けと比べて、アジア向けでは「電気機器」、アメリカ向けでは「一般機械」が多いのが特徴です。
* 近畿圏の輸入は、他の地域向けと比べて、欧米からは「化学製品」、アジアでは「電気機器」「その他」が多いのが特徴です。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－５大阪の国際化 | 全国・主要都府県の外国企業数の推移 |

特徴

* 大阪府に立地する外国企業数は2023年には123社で、全国シェアは3.9％です。
* 欧州系企業が49社と最も多く、アジア系企業が46社と続きます。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－６ | 国内主要空港別国際線航空貨物取扱量の推移 |

特徴

* 関西国際空港の国際航空貨物取扱量は、2017年から３年連続で減少した後、2021年は４年ぶりに増加に転じましたが、2022年は再び減少しました。ただし、東京国際空港などに比べて減少率が緩やかだったため、2022年の取扱量の全国シェアは21.4％と上昇しました。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－７大阪の国際化 | 全国・主要都道府県の国際会議開催件数の推移 |

特徴

* 大阪府における国際会議は新型コロナの影響を受け、2020年は23件と激減しました。
* 全国における順位は、東京都、京都府、兵庫県に次ぐ第４位です。



|  |  |
| --- | --- |
| ７－８ | 全国・主要都府県の在留資格別在留外国人数【2022年】 |

特徴

* 大阪府における在留外国人数は、2022年12月末に272,449人で全国の8.9％です。
* 在留資格別では、「特別永住者」「永住者」「留学」「技術・人文知識・国際業務」の順に多くなっています。

